

スーパーマンという映画は、皆さん観られたことがあると思います。私は1作目より2作目、スーパーマンII-冒険篇というのが面白くて、傑作だと思っています。フランスのエッフェル塔に仕掛けられた水素爆弾をスーパーマンが地球の外に投げ出し、人々は救われるのですが、宇宙で爆発したその爆弾のために、ファントムゾーンと言われる牢屋が壊れて、閉じ込められていた悪者3人が、地球にやってくるというふうに話が展開します。この3人はスーパーマンと同じクリプトン星出身のために、地球ではスーパーマンと同じ力を持っているのです。

この悪者3人が地球にやってきて、最初に降り立った所は、森の中の湖でした。何せスーパーマンと同じ力を持った悪者たちですから、その中の一人は、湖を沈まないでその表面を歩いているのです。たまたま釣りに来ていた人が、それを観てびっくりするのですが、私は大学4年でしたが、初めて映画の面白さを感じました。それからは、その映画が何を意識して作られたか、関心を持つようになりました。

今日の福音書の箇所、イエス様が湖の上を歩かれた話を知っている人は、悪者たちが、イエス様が湖の上を歩いていることを皮肉っているように映るのではないかと、思ったことでした。

またその後、悪者のひとりが、地上を這っている蛇を捕まえるのですが、その蛇が悪者に噛みつきました。するとその悪者は目から光線を出して蛇を焼き殺してしまうのです。これは、福音書に続く、使徒言行録の最後、28章で、パウロがローマへ護送される途中、マルタ島という島で、寒さをしのぐために枯れ枝に火をつけていると、マムシがパウロを襲ったけど、彼は平気でそれを火の中に振り落したことを思い出させてくれました。

欧米で作られた映画には、しばしばこのように聖書の物語を思い出させる場面があり、それに対する単なる皮肉だけでなく、ひとつのメッセージが込められていると感じることが大切なように思います。

イエス様が湖の上を歩く、というのは、旧約聖書の中に、神様が海の波の上を歩く、というイメージが、ユダヤ人の中にあつたことが根拠になっているのです。ヨブ記9章8節などでは『神は自ら天を広げ、海の高波を踏み砕かれる。』という表現があり、詩編77編20節には『あなたの道は海の中にあり、あなたの通られる道は大水の中にある。あなたの踏み行かれる跡を知る者はない。』というかたちで、イエス様を神様のように表現しているわけです。

映画では聖書を皮肉ったような表現がしばしば現れますが、それと同じことが、旧約聖書と新約聖書との間にも言えると思うのです。つまり、新約聖書の出来事は、旧約聖書の物語を思い出させて、そこにメッセージが込められている、と理解することです。今日の湖の上を歩く話もそうですが、もっと別のことを挙げてみましょう。

今日の福音書の最後には、『イエスが舟に乗り込まれると、風は静まり、弟子たちは心の中で非常に驚いた。パンの出来事を理解せず、心が鈍くなっていたからである。』と書かれています。パンの出来事とは何でしょう？

先週の福音書はイエス様が5つのパンと2匹の魚で、男だけでも5000人の人々を満腹させた出来事でした。これについては、元のお話があるわけです。列王記下4章には、預言者のエリシャが大麥のパン20個を100人の人々に分け与えると、食べきれずに残したお話があるのです。そして、この5千人の食事の奇跡物語を、ヨハネによる福音書の締めくくりでは、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」（ヨハネ6：14）とっています。

これは、エリシャの再来という意味なのか、あるいは、申命記18章で、モーセが預言している、神様がモーセのような預言者を送ると約束した人物なのか、いろいろ受け止められるところです。

申命記は「◆預言者を立てる約束、」としてモーセの語った言葉に出てきます。

『18:15 あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしのような預言者を立てられる。あなたたちは彼に聞き従わねばならない。』

モーセが、エジプトを脱出して、荒れ野で食べ物にも飲み物にも困っている人々に、朝にはマナ。夕方にはウズラを与えましたし、たびたび水脈を見つけて、飲み水をあたえたのでした。この奇跡が、エリシャにも起こりましたし、イエス様がそれを思い出させるように、当時の人々に表したということでしょう。

これらのことをハッキリさせるために、更に今日の福音書から、二つのことを例に挙げて考えたいと思います。

5週間前、私たちはイエス様が弟子たちと舟に乗っていた時、湖が荒れて、それをイエス様が静められたことを覚えています。ところが、今日の所では、弟子たちだけが舟に乗っていて、イエス様は陸地におられたんですね。ところが弟子たちが困っているのを見て、海の上を歩いて弟子たちの所へ行かれるのですが、「そばを通り過ぎようとした。」とあります。それで、弟子たちは幽霊だと思って、大声で叫ぶんですね。イエス様は弟子たちの方へ行ったのに、どうして通り過ぎようとしたのでしょうか。その疑問が湧いてきます。

そして、もう一つ気になったのは、弟子たちがイエス様を幽霊だと思ったのですが、「安心なさい。わたした。恐れることはない。」と言われた言葉です。

先ず、そばを通り過ぎようとしたことですが、これは、旧約聖書の中心人物、モーセとエリヤについて、起こったことなんです。しかも、同じ場所です。皆さん、想像がつかますか。

ふたりに共通するのは、神の山ホレブ。つまりシナイ山のことです。

モーセの場合は、出エジプト記の33章です。ここで、神様はモーセにご自身を現されるのですが、直接神様を見ると死んでしまうので、神様はこのように言われました。

『33:20 また言われた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」33:21 更に、主は言われた。「見よ、一つの場所がわたしの傍らにある。あなたはその岩のそばに立ちなさい。33:22 わが栄光が通り過ぎるとき、わたしはあなたをその岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、わたしの手であなたを覆う。33:23 わたしが手を離すとき、あなたはわたしの後ろを見るが、わたしの顔は見えない。』』

こんなことが、エリヤにも起こりました。列王記上19章です。

実は、この出来事の前、エリヤはバアルの預言者と対決して勝つのですが、アハブ王の妃イゼベルに命を狙われてホレブの山まで逃げた時のことです。

『19:9 エリヤはそこにあつた洞穴に入り、夜を過ごした。見よ、そのとき、主の言葉があつた。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」19:10 エリヤは答えた。「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところが、イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残し、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています。」19:11 主は、「そこを出て、山の中で主の前に立ちなさい」と言われた。見よ、そのとき主が通り過ぎて行かれた。』

このように、そばを通り過ぎる、というのは、神様が登場する時の表現なんですね。

それでは、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」の方はどうでしょうか。

この中心の言葉は「わたしだ。」ということですが、これはギリシャ語でしばしば出てくる「エゴー、エイミ」という特別な表現で、意味は、「わたしは、ある。」ということになります。そしてこれは、モーセが神様から、エジプトへ行くように命じられた時の言葉でもあるのです。

出エジプト記の3章に出てきます。

『3:9 見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼らを圧迫する有様を見た。3:10 今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」3:11 モーセは神に言った。「わたしは何者でしょう。どうして、ファラオのもとに行き、しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」3:12 神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」3:13 モーセは神に尋ねた。「わたしは、今、イスラエルの人々のところへ参ります。彼らに、『あなたたちの先祖の神が、わたしをここに遣わされたのです』と言えば、彼らは、『その名は一体何か』と問うにちがありません。彼らに何と答えるべきでしょうか。」3:14 神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」

これは、「わたしはある。」とか、以前の口語訳聖書では、「わたしは、有って有る者」と表現されてきました。ところが6年前に発行された聖書協会共同訳では「私はいる、という者である」と、少し工夫がされているように私には感じました。

私が神学校で習った旧約聖書の先生、定形日佐雄先生は、「わたしは、ある」というのは、良くない。「わたしが、ある」というふうに、主語が強調されなければならない、と言われました。

それが今回の翻訳で「私は、いる」となって、おもしろいのですが、「わたしがいる」と言った方が聞いているモーセには勇気を与えたのではないかと想像します。

これを今日のイエス様の言葉、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」にあてはめるなら、『安心しなさい。わたしがいるじゃないか。恐れることはない。』というわけです。

弟子たちは、イエス様を見て、幽霊だと思った、という表現から、多くの学者は、これがイエス様の復活後の姿を現しているのではないかと、言います。ルカによる福音書のイエス様の復活の時、弟子たちは、イエス様を「亡霊」だと思った、という表現があるからです。

今日の福音書は、弟子たちだけで舟を漕いでいる時、イエス様だけが陸地にいる設定になっていますが、これはイエス様が天に帰られた時、困っている弟子たちに「安心しなさい。わたしがあなた方と一緒にいるんだから、恐れるな。」と言っておられることを表現しているのではないのでしょうか。

今日は、スーパーマンの映画の話から始めましたが、イエス様が水の上を歩かれたことや、弟子たちの近くを通り過ぎた話や、弟子たちに「わたしだ。」と声をかけたことなど。それらは、旧約聖書に出てくる神様のことを、イエス様がもう一度思い出させて、そして、イエス様こそ神様であることを信仰告白しているのです。そして今も、これからも、「わたしが、あなた方と共にいる」。インマヌエル、ということをおられる、ということなのです。

私たちも、弟子たちのように、一晩中漕いで疲れている時、「わたしがあなたと共にいる。」というイエス様の言葉を信じて、歩む者でありたいと思います。